

昭和医科大学烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病 院 長 真田 建史

〔編集責任者〕広報委員長 真田 建史

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第219号

[2025年11月1日]

第12回成人発達障害支援学会 東京大会報告

発達障害医療研究所 所長 太田 晴久
五十嵐 美紀

10月11日・12日、一橋講堂(東京都千代田区)にて第12回成人発達障害支援学会 東京大会が開催されました。

大会長は昭和医科大学発達障害医療研究所 所長・太田晴久、事務局は昭和医科大学発達障害医療研究所が担当しました。

当日は、来場者551名(うち学生・当事者・家族、142名)、公開講座一般参加者160名を含め、合計711名の方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了しました。全国各地から多くの方が集まり、会場は熱気と笑顔に包まれました。



東京大会の様子

大会テーマは「Care with peers(当事者と共に支え合うケア)」。シンポジウムや特別講演だけでなく、全国発達ケアの集い、ワールドカフェ、体験型プログラム、ポスター発表など、参加型の企画を通じて、当事者・家族・支援者・学生が互いに学び合い、意見を交換する貴重な場となりました。参加者からは「横のつながりが持てた」「安心して自分の思いを話せた」との声も多く、あたたかい時間が会場全体に広がりました。

【公開講座：あらゆることは今起こる】

芥川賞作家の柴崎友香先生にご登壇いただき、発達障害について豊かな表現で講演を行っていただきました。柴崎先生は著書「あらゆることは今起こる」の中で、ADHDと診断されたこと。これまでの経験を綴られています。学会理事長の加藤進昌先生、朝日新聞記者の岡崎明子様との鼎談が行われました。



【当事者・家族・支援者が共に学びあう～ワールドカフェ～】

ワールドカフェでは当事者・家族・支援者が自由に語り合い、共に学ぶ時間を体感しました。笑顔や熱心なまなざしがあふれる、心に残るディスカッションの場となりました。

【発達障害専門プログラム研修会】

当院で開発した発達障害専門プログラムの研修会には 100 名を超える方が参加し、関心の広がりを実感できました。さらに、このプログラムから派生した学生プログラムは星和書店より書籍化され、多くの方に学びを届けています。

『発達障害のある学生を支援するプログラム・マニュアル-ともに「気づき」「学び」「成長」するために-』. 太田晴久, 五十嵐美紀: 星和書店, 2025 年 10 月



【イラストコンテスト】

本大会ではイラスト募集も行い、全国から多くの素晴らしい作品が集まりました。

最優秀作品には、瑠-yo-さんの作品「彩限ない」が選ばれました。

この作品は、大会テーマ「Care with peers」をやさしく映し出し、当事者・家族・支援者が共に支え合う思いを形にした作品として、多くの参加者の共感を呼びました。



最優秀賞
『彩限ない』
瑠-yo-さんの作品

【発達×つなぐ MAP で全国とつながる】

写真は、「発達×つなぐ MAP」。全国各地から集まった参加者の皆さんに居住地の場所にシールを貼っていただき、メッセージを書き込むと、ひとつひとつのシールと文字が重なり合い、色鮮やかで力強い MAP が完成。会場がひとつにつながったような、あたたかくも感動的な光景となりました。



挨拶をする太田 晴久 発達障害医療研究所長

この大会の成功は、関係機関やボランティアの皆さま、そして全国から参加してくださったすべての方々のご協力があつてこそです。心より御礼申し上げます。

昭和医科大学発達障害医療研究所では、医療・教育・福祉・地域が連携し、当事者や家族とともに、今後も成人発達障害をもつ方々の安心できる生活と学びの場を広げてまいります。

次回大会は 2026 年 9 月 5-6 日に高知での開催を予定しています。

新任・異動者紹介

精神科 医師 ^{はなわ}花輪 ^{よういち}洋一

今年度から昭和医科大学烏山病院に配属となりました花輪洋一と申します。昨年度は昭和大学横浜市北部病院にて勤務しておりました。4月からは、主に B3 病棟で勤務させていただいております。（11月1日時点では、C4 病棟を担当）スタッフの皆さまと連携しつつ、患者さまに最良の医療を提供できるよう尽力致したく存じます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。



精神科 医師 ^{ほりぐち}堀口 ^{そう}爽

入局4年目の堀口です。烏山病院、北部病院、日立梅ヶ丘病院を経て、烏山病院に戻ってきました。A4 病棟配属で、様々な症例を経験させていただいております。まだまだ至らない点がありますが、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



コラム連載（第4回）

こちらは、当院で働く様々な職種の方に、当院にまつわるお話や、メンタルヘルスに関することなど幅広い形で情報提供をさせていただく企画です。第4回は、当院事務長である、秋山好司氏に執筆してもらいました。

烏山病院着任から振り返って・・・

昭和医科大学烏山病院 事務長 ^{あきやま}秋山 ^{こうじ}好司



2024年4月に着任して、早くも1年半が経ちました。振り返ってみると昨年度はとにかく人員の入れ替え等が多かった1年目でした。私もその一人ですが、烏山病院から別の部署へ異動となられた方や、新たな道に進むためご退職された方など、多くの方々が様々な想いや理由で、それぞれの『道』を進まれて行かれました。

さて、自分自身の進んできた『道』は？ これからの『道』はどうなるか？

皆さんも一度はそんな事考えたことはありませんでしょうか。実際自分自身の『道』を振り返ると、今この烏山病院で勤務していることを、1996年入職時に想像出来たでしょうか。そんな想像もつかない様々な事が日々起こりますが、私は無理せずその流れに上手く乗って、自分なりに進んで行けたと思っています。

この世田谷という都会の中でも、ちょっと田舎っぽい感じがする、緑豊かな『道』を毎朝通勤で歩いていると見えてくるのは、甲州街道の櫛並木や病院までの桜並木、市民緑地やつつじ園といった自然が気持ちよく感じられます。皆さんも肩に力を入れ過ぎず、スマホばかりを見て下を向かずに、顔を上げてみてはどうでしょうか・・・



デイケア活動

(A) さん

金曜日の午後に私が参加している「奉仕活動」を紹介いたします。

奉仕活動では、病院周辺の道路のゴミ拾いや、雨天時には病院内の清掃作業をすることが多いです。

私は大雑把なタイプなので、日常で歩いている道路の汚れも気にしていませんでしたが、真剣にゴミ拾いしてみると意外とゴミが落ちていることに驚きました。

駐車場の周りにはドライバーが吸ったと思われるたばこの吸い殻が多く落ちていたりしますし、缶やお弁当の入ったごみ袋などは茂みの奥の見づらい場所に捨てられていることもよくあります。

夏の公園では水風船の破片が落ちていて、子供たちが夏休みに水遊びをしていた光景が目につくたび、頬が緩みました。

また、ごみの多い場所には蚊が多く、雨水のたまった空き缶などのゴミから蚊の幼虫が発生したのかもしれない。そういった観点からも、清掃活動は地域環境の改善に役立つと思います。

発達障害の特性でコミュニケーションがあまり得意ではなく、普段は人と関わる機会が無い自分ですが、ごみ拾いをしていると地域を少し綺麗にできたと思いますし、社会の役に立てていると実感もできました。

そして、この活動を通じて、人と人とお互いに助け合うことで社会は成り立っているのだと感じ、自分も社会の一員として頑張ろうというモチベーションにつながると思います。



《 9 月 》 入 院 (前 月) 外 来 (前 月)

◆延 患 者 数 8,581(8,876) 6,461(6,171)

◇一日平均患者数 286.0(286.3) 269.2(246.8)

◆診 療 実 日 数 30(31) 24(25)



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時

電 話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座Instagramが開設されました。
随時情報を発信していきますので、
どうぞよろしくお願いいたします。



【編集後記】

急激に気温が下がり、涼しくなってきたと感じる間もなく、寒くなって参りました。

コンビニなどでは、おでんコーナーが設置され、周りはすっかり冬仕様になりつつあります。

最近秋を感じられる期間が短くなりました。

鳥山病院の前にはイチョウ並木があり、これから黄金色に色づき始めて参ります。

当院にいらっしゃる方は、コラムにあるようにすこし顔をあげてみてください。短かった秋を少しは感じるができるかもしれません。

広報委員 石川 智貴

